

第2学年 第4時指導案【日本の水産業】

1. ねらい

地図帳や教科書を調べる活動を通して、水産業は環境条件と大きな関連があることを理解する。

2. 準備

[教師]教科書 地図帳 資料プリント ワークシート パソコン プロジェクター

[生徒]教科書 地図帳

3. 展開

生徒の学習活動	支援、指導上の留意点	時間
<p>群馬県の漁獲高の全国的な地位を考える。海に面していないことなどから、淡水魚の漁獲高があること、全国的に見るとあまり漁業が盛んな地域ではないことに気付く。</p>	<p>群馬県と全国の漁獲高の数値を提示する。生徒に予想してから答えさせることで、他県と比べ漁獲高が少ないことを実感させる。漁業があまり盛んでない理由は、生活経験から考えさせる。 群馬県ではコイの漁獲高が比較的大きいことを、地形(ため池)や産業(養蚕業)などと関連させて説明する。</p>	10
<p>日本人が食べる魚は、どこから来るのだろうか？</p>		
<p>地図帳や統計資料から、三大漁場について調べ、好漁場の条件を理解する。また、日本で食べる魚はどこからやってくるのか調べることを通して、その半分を海外からの輸入に頼っていることに気付く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 3大漁場は、海の白いところ(水深200m) ・ 暖流と寒流がぶつかっているところ ・ 島が多いところは、漁業が盛ん ・ 日本人が食べる魚の量は増えている ・ 日本の漁獲量は減っている ・ 輸入や養殖が増えている ・ 日本人が食べる魚は、輸入に頼っている <p>水産業に関する問題(漁業資源の減少、後継者不足、排他的経済水域など)に関する説明を、理由を考えながら聞き、その問題が自然や社会などの環境条件によって生じていることを理解する。それをふまえて、マグロが食べられなくなりそうになったらどうするか考える。</p>	<p>世界の三大漁場の環境条件を、海流の潮目と水深(大陸棚)の2つに絞って考えさせる。そのために、地図帳の「世界の地形」(p4~6)や教科書の「世界の3大漁場と海流」を比較させて考える。三大漁場以外の大きな漁場があること、潮目がはっきり読み取れないことなどから、あまり「三大」には拘らず、深入りもしない。 資料活用能力を高めるため、どの資料から調べられるのか明確にした上で作業をさせる。資料のタイトル、出典、年度等必要なことを確認する。漁獲量の変遷に関するグラフについて、減少の理由が明確でないものがあるので、理由には深入りしない。 魚介類を輸入に頼る現状を、生徒が理解しやすいよう、回転寿司のメニューを例とする。 重要語句については、知識が定着しやすいよう穴埋め形式のプリントを用意し、答えさせる。 <u>【評価】日本の魚はどこから来るのかなどについて資料を調べ理解する(ワークシート)《資》《知》</u> 漁業資源の減少に関しては、大西洋のタラの問題を取り上げる。排他的経済水域の問題に関しては、領土の問題とも関連させて説明する。生徒に分かりやすく説明をするため、深入りはしない。 条件を揃えて意見の比較がしやすいよう、「自分がマグロ好きな人」と仮定して考えさせる 資源回復のための人々の取り組みを、鱒の資源回復や完全養殖クロマグロを取り上げて説明する。養殖や畜養の是非等については深入りしない。</p>	30
<p>本時の学習で分かったことや感想を書く。</p>	<p>毎時、同じ質問に同じ形式で答えさせ、その変容を把握して、次時の指導へ生かす。</p>	5

【資料】kob 2 年 (4) 世界と日本の漁業

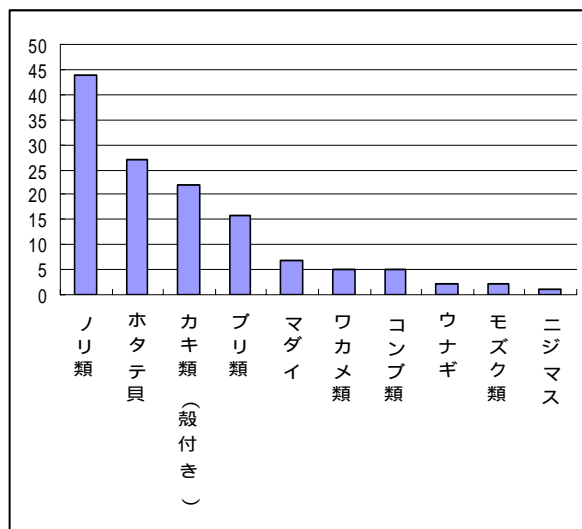
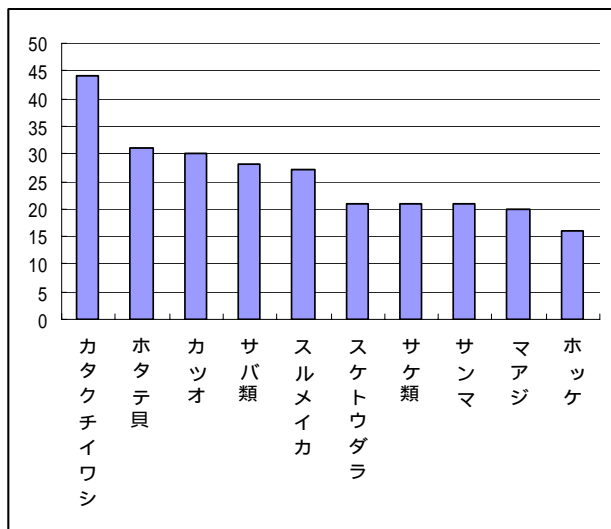
世界から見た日本人と漁業

- 日本人は、世界から見て魚をたくさん食べる国民である。
- ・世界で4番目(モルジブ アイスランド ポルトガル)
 - ・1人あたり約70kgの魚を食べる(骨や内臓などを除くと、40kg)
- 日本は、世界から見て魚をたくさんとる国である。
- ・漁獲高は5位(1位中国の約9分の1)
 - ・最も魚を捕っていたところと比べ、約半分の漁獲高になった。
- 日本は、世界から見て魚をたくさん輸入している国である。
- ・輸入額世界1位(世界の総輸入量の22%)(アメリカ スペイン)
- 日本人は、世界から見てたくさんマグロを食べている国である。
- ・世界のマグロの3分の1を消費する

日本の漁業の現状と課題

200海里経済水域(排他的経済水域)
 その国が優先的に、水産資源やエネルギー資源に関する権利を持つ範囲。200海里は約370km。
 日本は世界で6番目の面積を持つ。(アメリカ合衆国 オーストラリア インドネシア)

養殖
 魚介類に養殖が占める割合(平成15年/「こども図で見る日本の水産」より)
 [ぶり類] 7.2% [マダイ] 8.5% [ホタテ貝] 4.3% [ノリ類] 10.0%
 ⑤漁獲量の多い魚、⑥養殖の多い魚トップ10(平成14年:単位 万トン)



主な魚の輸入先

マグロ	台湾	韓国	オーストラリア
イクラ	アメリカ合衆国	カナダ	ロシア連邦
サーモン	チリ	ノルウェー	アメリカ合衆国
エビ	インドネシア	ベトナム	インド
イカ	タイ	中国	ベトナム
タコ	モロッコ	ベトナム	モーリタニア

2003年のデータ(タコは不明): 通商白書などによる




魚神(はたはた)

秋田名物「しょつつるなべ」に欠かせない魚。15cmほどで、口は大きく、体に鱗がない。
 かつて1~2万トンのあった漁獲高が1991年には71トンまでに落ち込む。その理由は乱獲に加え、産卵のための藻場がコンクリート整備や開発、海洋汚染などにより破壊されたことによる。

漁業者は、92年から3年間のはたはたの禁漁を決断。産卵用の藻場の造成、卵の人工ふ化・放流などの方策もとった。そのことにより、徐々に資源が回復し、少しずつ漁を再開した。漁の再開後も、とれる魚や漁場の制限(禁漁区も)を行い、03年には20年ぶりに漁獲高が千トンを超えた。

回転寿司のネタはどこから？（輸入）

国名を書く

	マグロ	
	イクラ	
	サーモン(サケ)	
	エビ	
	イカ	
	タコ	

マグロが食べられなくなったらどうする？

あなたは、とてもマグロが好きだと仮定します

- A：食べられるうちにどんどん食べる
- B：マグロは食べずに、他の魚を食べて我慢する
- C：養殖の技術に期待する（養殖物が出回ったら、どんどん食べる）

【理由】

授業はおもしろかったですか？

- A．たいへんおもしろかった
- B．おもしろかった
- C．あまりおもしろくなかった
- D．おもしろくなかった

今日の授業の感想

.....

.....

.....